



福岡医発第 1210 号 (総)

平成 24 年 8 月 3 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会

会長 松 田 峻一良

(公印省略)

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
研究助成金（美原賞）受賞候補者推薦について

本件につきまして、公益信託美原脳血管障害研究振興基金運営委員会より別添のとおりに案内が参りました。

つきましては、貴会会員へご周知いただきますとともに、応募がございましたら、10 月 22 日（月）までに本会総務課宛、別添の推薦書をご提出くださいますようお願い申し上げます。本会にて取りまとめて応募いたします。

平成24年8月吉日

関係各位

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
運 営 委 員 長 後 藤 文 男
受託者 みずほ信託銀行株式会社

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り有難く厚くお礼申し上げます。

さて、公益信託美原脳血管障害研究振興基金は、脳血管障害に関する研究振興を目的に、文部（現文部科学）大臣の許可を得て昭和56年に設立されました。

爾来、国内外の方々より、近年脳血管障害の研究において目覚ましい業績を挙げておられる研究者（臨床、基礎研究のいずれも可）をご推薦いただき、研究費（1,000万円）の助成を行って参りました。

このたび、平成24年度研究助成金（美原賞）候補者の募集を行うことになりましたので、同封いたしました下記の書類をご参照いただき、貴殿より研究助成金（美原賞）候補者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

なお、過去にご推薦をいただき、惜しくも受賞されなかった方の再度のご推薦も差支えはありません。

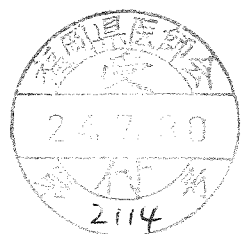
また、本基金は推薦者・被推薦者の個人情報为本基金選考助成実施のために必要な範囲において取扱い、その範囲を超えて使用することは一切ありません。

敬 具

（同封書類）

1. 公益信託美原脳血管障害研究振興基金の設定趣意書
2. 公益信託美原脳血管障害研究振興基金の概要
3. 平成24年度研究助成金（美原賞）候補者の応募要項および推薦書
4. 平成23年度受賞者（川原 信隆様）略歴、受賞記念講演抄録

以 上



趣 意 書

本研究振興基金は、脳血管障害（脳卒中）に対する研究を振興するため、国の内外を問わず、すぐれた研究者に重点的な研究費助成及び補助を行なうことを目的とする。

衆知のように、脳血管障害とガンの両疾患は、我が国の死亡原因の首位を争うものである。しかし、ガンの研究に対する社会的関心は頓に高まりつつあり、その研究者も既に膨大な数に達しつつある。これに反し、脳血管障害の研究の重要性はややもすれば看過されがちであるとしても決して過言でない。

しかも、脳血管障害の研究においては、その成因、予防、治療、社会復帰のいずれも複雑な問題を内包し、基礎研究、臨床研究、或いは社会医学的研究のいずれも極めて忍耐強い努力を研究者に要求するものである。

この公益信託基金の委託者美原博は、既に財団法人脳血管研究所及び付属美原記念病院を設立し、多年に亘り脳血管障害の成因、診断、治療、社会復帰等の研究に努力を重ねてきたのである。しかしながら、この疾患の研究はもとより一研究組織のよくする所ではない。従って、美原博、国の内外を問わず、より広い規模において、この疾患の研究に立ち向かう英知を育成する必要を痛感し、この疾患に取り組むすぐれた研究者に重点的に研究費助成及び補助を行なわんと決意したのである。

玄に、公益信託美原脳血管障害研究振興基金を設立し、研究を奨励し、医学の進歩と人類の福祉に貢献することを念願する所以である。

昭和56年4月作成
美原博（故人）

「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」の概要

1. 基金名称 公益信託美原脳血管障害研究振興基金
2. 目的 我が国において脳血管障害の基礎的、臨床的研究が急務であることに鑑み、この分野での研究者による研究に対し、助成を行い、もって医学の進歩と人類の福祉に寄与することを目的とする。
3. 事業 脳血管障害に関する基礎的、臨床的研究に携わる研究者の研究に対し、助成金の給付を行う。
4. 当初信託財産 3億円
5. 委託者 (故) 美原 博
6. 信託管理人 武見 敬三 (東海大学教授)
7. 運営委員長 後藤 文男 (慶應義塾大学名誉教授)
8. 運営委員 (五十音順) 田村 晃 (財団法人富士脳障害研究所附属病院病院長)
赫 彰 郎 (日本医科大学名誉教授)
戸谷 重雄 (慶應義塾大学名誉教授)
美原 恒 (宮崎医科大学名誉教授)
吉田 洋二 (山梨大学名誉教授)
9. 主務官庁 文部科学省 (研究振興局学術研究助成課)
10. 受託者 みずほ信託銀行株式会社

**「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」
平成24年度研究助成金（美原賞）候補者応募要項**

1. 目 的

本基金は、我が国において脳血管障害の基礎的、臨床的研究が急務であることに鑑み、この分野での研究者による研究に対し、助成を行い、もって医学の進歩と人類の福祉に寄与することを目的とする。

2. 助成の対象

脳血管障害の基礎的、臨床的研究において目覚しい業績を挙げている研究者の研究。

3. 助成件数・金額

1件 1,000万円

4. 推薦方法

推薦者は、所定の研究助成金（美原賞）候補者推薦書に候補者^{ふりがな}氏名の他、必要事項を全て記入のうえ、下記の事務局あて送付してください。

* 候補者^{ふりがな}氏名欄には、必ず候補者の自署（サイン）および押印を、推薦者氏名欄には、必ず推薦者の自署（サイン）および押印をお願いします。

5. 募集期間

平成24年8月1日（水曜日）～平成24年10月31日（水曜日）（事務局必着）

6. 選考方法

本基金の運営委員会において決定します。

7. 研究助成金（美原賞）の贈呈

平成25年2月（予定）

8. 問い合わせ先および推薦書送付先

〒103-8670 東京都中央区八重洲1-2-1

みずほ信託銀行株式会社 個人営業推進部

「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」事務局

電 話 (03) 3274-9210

F A X (03) 3274-9504

- (注) 1. 助成金は贈呈後の 1 年間に使用することを原則とし、使用期間が 1 年以上の場合は、研究の進捗状況に関する中間報告（書式は任意）を事務局あて提出してください。
2. 研究助成金（美原賞）受賞者は、研究成果報告書（経過と結果）および助成金の使用状況についての収支報告書（領収書等を添付）を提出してください。また、専門誌等に研究成果を発表する際は、“公益信託美原脳血管障害研究振興基金より研究助成金を授与された研究である”旨を記載してください。
3. 研究助成金（美原賞）受賞者の、受賞記念講演抄録、写真、略歴ならびに業績集を当基金のホームページに掲載します。

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
平成24年度研究助成金（美原賞）候補者推薦書

公益信託
美原脳血管障害研究振興基金

御中

2012年 月 日

(推薦を受ける研究者の) ふ り が な 氏 名 上 記 英 文 名 生年月日 年齢	
所 属 機 関 上 記 英 文 名	
職 位 ・ 学 位 上 記 英 文 名	
最 終 学 歴	西暦 年 月 大学卒業
	西暦 年 月 大学院修了・退学
上記研究者を、貴基金研究助成金（美原賞）候補者として推薦します。	
推 薦 者 (自署願います)	ふ り が な 氏 名 所 属 機 関 職 位 住 所 電 話
	印

推薦理由

*推薦者は、具体的に主要な業績を挙げてご推薦下さい。

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.

被推薦者調書

(被推薦者ご自身にてご記入願います。)

* 研究助成金を受けて行う研究テーマ

* 研究テーマに関する所要金額

* 研究目的

* 研究計画

被推薦者調書

*主要文献（10 編以内）

被推薦者
(自署願います)

氏 名
所属機関
職 位
住 所
電話番号
E メールアドレス

印

平成 24 年 1 月現在

略歴

氏名 川原 信隆
生年月日 1957 年（昭和 32 年）7 月 25 日生
現職 横浜市立大学大学院医学研究科脳神経外科学・主任教授
同附属病院・副病院長

履歴

昭和 57 年 3 月	東京大学医学部医学科卒業
昭和 57 年 6 月	東京大学医学部附属病院研修医
昭和 58 年 6 月	県西部浜松医療センター研修医（脳神経外科）
昭和 59 年 5 月	富士脳障害研究所附属病院脳神経外科
昭和 59 年 9 月	公立昭和病院脳神経外科
昭和 61 年 1 月	東京大学医学部附属病院医員
昭和 64 年 1 月	埼玉医科大学総合医療センター助手、講師
平成 3 年 7 月	関東労災病院脳神経外科 副部長
平成 4 年 7 月	Stroke Branch, National Institutes of Health, USA
平成 6 年 12 月	東京大学医学部附属病院医員（脳神経外科）
平成 7 年 9 月	同 助手
平成 11 年 6 月	同 講師
平成 15 年 4 月	東京大学大学院医学系研究科助教授（准教授）
平成 20 年 4 月	横浜市立大学大学院医学系研究科脳神経外科学 主任教授
平成 23 年 4 月 1 日	横浜市立大学附属病院 副病院長兼任

専門 脳血管障害の外科、実験的脳虚血再生研究、脳腫瘍の外科

学会、委員会等

日本脳神経外科学会理事、日本脳卒中学会評議員、日本頭蓋底外科学会理事、日本脳循環代謝学会理事、日本脳腫瘍の外科学会理事、公益財団法人日本脳神経財団理事、等
厚生労働省薬事・食品衛生審議会部会委員平成 21 年 4 月～

American Association of Neurological Surgeons, Member

World Federation of Neurological Surgeons Skull Base, Committee Member

International Society of Cerebral Blood Flow and Metabolism, Committee Member

North American Skull Base Society, Member , 等

受賞等

Hakone Best Presentation Award, 12th International Symposium on Brain Edema and Tissue Injury, 2002

編集委員等 (Editorial & Review Board)

Neurologica Medico-Chirurgica(Tokyo), Co-Editor

CI 研究、脳神経外科、脳神経外科速報、分子脳血管病、Annual Review 神経、BRAIN and NERVE Neurosurgical Review , Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases, Surgical Neurology International, The Scientific World JOURNAL, 等

「虚血性脳損傷後の神経再生に関する研究」

横浜市立大学大学院医学研究科脳神経外科学

川原信隆

脳組織が極めて虚血に弱いことは広く知られている。なかでも海馬 CA1 領域、線条体背外側部などは特に脆弱な部位とされ、数分の短時間虚血であっても、神経細胞だけが選択的に細胞死に陥り、記憶力障害、運動障害などが後遺する。これらの神経細胞死を予防する保護療法の開発が進められてきたが、未だに画期的治療法の実現には至っていないのが実情である。一方、1990 年代に哺乳類の成体脳にも神経幹細胞が存在することが報告され、損傷脳において新たに神経細胞を再生・誘導できる可能性が示唆されたことから、虚血性損傷後の機能再建にむけた神経再生研究が世界的な注目を集めることとなった。

哺乳類成体脳において、前脳室下帯から嗅球に至る系および海馬歯状回の 2 力所で、生理的かつ持続的に神経新生が生じており、これらの部位で初めて神経幹細胞の存在が同定された。一方、これらの 2 部位の限局的存在では、広範に生じうる虚血障害後に神経細胞を再生させることは、極めて困難であろうとも想定されていた。しかし、その後の研究によって、神経幹細胞はより広い領域に存在していること、損傷に応答して障害部位に遊走してゆくこと、また電気生理学的にも成熟して失われた機能の再建に寄与し得ることなどが、様々な実験系で示されてきた。

例えば、海馬 CA1 領域では生理的な神経新生は生じておらず、神経幹細胞も存在しないと考えられていたが、齧歯類を用いた虚血モデルでは虚血後に同部位の神経幹細胞が刺激されて神経を新たに再生することが分かった。特に、神経の増殖を刺激する成長因子を短期間投与することで、失われた神経細胞の 40% が再生されて、機能的にも記憶力が改善することが示された。これらは、生理的状态では休止しているものの、虚血に応じて動員可能な神経幹細胞が広く存在している可能性を示した。また、線条体における細胞死後には、前脳室下帯の神経幹細胞が遊走し、神経再生と機能再建が可能であることも実験的に

示された。特に再生部位に応じて神経分化の方向性が決定され、表現系が変化し得ることも分かってきた。また、神経分化を抑制する因子の研究も進み、それらを制御することで効率性の高い再生を促す治療法の研究も急速に進歩している。

これらの急速に発展してきた神経再生療法の知見を概説し、さらに今後の発展が期待される神経回路網再建療法についても展望を紹介する。哺乳類成体脳における神経再生機構の解明が、将来の臨床的神経再生療法へと発展することを期待したい。